

私はこのインターンシップの授業を担当して5年目になります。受け入れ先の依頼に始まり、受け入れ先との連絡、実習生の決定、説明会や事前打合会を開催、総括会議や体験発表会、そして報告書を作成するまでにいろいろな苦労がありますが、体験した学生から、毎年、「社会人とし

ての意識を持つことが出来た」「コミュニケーションの大切さがわかった」「仕事に対する責任感と他人を思いやる心を知った」「進路の参考になった」という感想があり、それまでの苦労が報われた気がします。そして、学生にとってこれからの人生を考える上での貴重な体験になったことにや

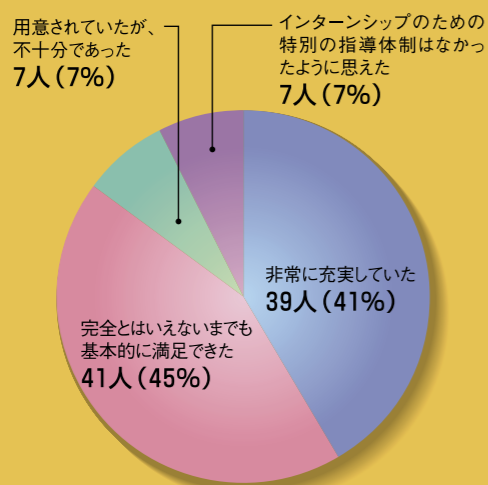
りがいを感じます。これからもカリキュラムとしてのインターンシップの構築にむけて工夫をしながら、実施していきたいと思います。



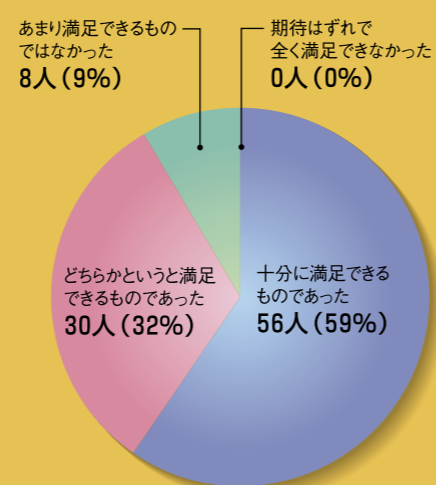
就職体験中の学生(新潟インターンシップ推進協議会提供)

法学部インターンシップ学生アンケート (2004年度法学部インターンシップ報告書より)

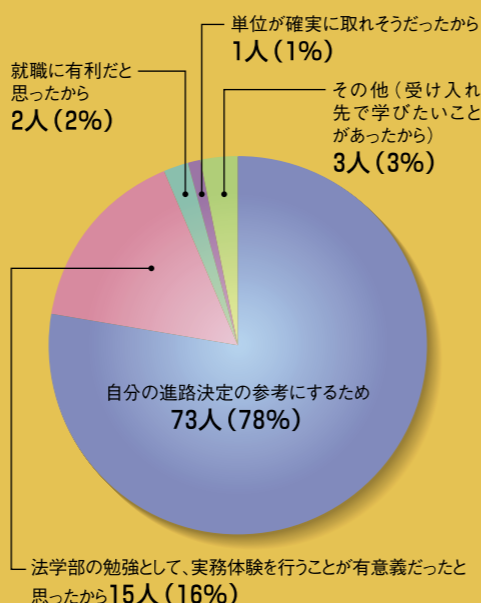
実習先の受入体制・指導体制(担当者、個人の机、教育・実習プログラムなど総合的に)は、整っていましたか?



インターンシップに対する満足度は?(希望と合致していたかどうかに関係なく)



インターンシップに参加しようと思った最大の理由は何ですか?



Let's go! INTERNSHIP

人文学部

人文学部助教授 ● 中村 隆志

新潟大学人文学部は2000年度よりインターンシッププログラムを始めました。今年度で6回目を迎え、志望者は増えてきています。一時期は導入への懸念がありましたが、今では学生への周知もうまく進んでおり、またにいがたインターンシップ協議会のHP(<http://www.niigata-internship.jp/>)が有効に機能しているせいか、大きな不安もなく、順調な進展を遂げております。ただし、やはり怪我や事故などへの心配は依然として続いており、担当者間の連携をどうとっていくかが課題として残るようです。大きな事故が起こる前に、できることを考えておくべきでしょう。

教育人間科学部

教育人間科学部助教授 ● 雲尾 周

教育人間科学部のインターンシップは平成12年度から始まる。平成10年度に学部改組し学校教育課程以外に4つの新課程が設けられ、その個々の課程において3年次学生を対象に新しいカリキュラムとしてインターンシップが実施されている。受入機関はそれぞれの課程の専門に応じた公的機関や、必ずしも営利を目的としない団体が多いことが特色である。専攻に関連する機関での実習のため、戦力として受入先から歓迎されており、学生も講義と実社会が結びつくことから学習意欲・理解度が高まるという成果がある。健康スポーツ科学課程(毎年約30名のインターンシップ)では必修科目、学習社会ネットワーク課程(同20数名)、芸術環境創造課程音楽表現コース(同10数名)では選択科目として単位認定している。生活環境科学課程では試行を経て平成17年度から本格実施・単位認定する。

理学部

理学部教授 ● 檀上 篤徳

理学部におけるインターンシップは平成11年度、自然環境科学科で開始されました。平成13年度に、理学部総合科目「インターンシップ特別実習」を開設し、理学部の実施体制を整備しました。このインターンシップは、開始当時より、在学中の就業体験を通して、学生が自らのキャリア形成を積極的に進めることを支援する教育プログラムと位置づけられてきました。

学生の意識の向上、受け入れ事業所との相互理解を深めるために、「インターンシップ講演会」、「事業所との懇談会」を開催して、理学部のキャリア教育体制の整備に努めているところです。詳しくは、平成15年3月発行の「インターンシップ報告書」を参照して下さい。

工学部

工学部助教授 ● 佐伯 竜彦

工学部建設学科社会基盤工学コースでは、30年以上にわたってインターンシップを実施しています。夏期休業期間を利用して、毎年30名程度の3年生が参加しています。期間は3週間前後で、官公庁や建設会社等で実務に関する実習を行っています。参加した学生は、インターンシップ終了後の報告会で実習の内容や感想等を報告しますが、大学での講義と実務の関係について理解が深まった、就職先を考える場合において大いに参考になった等の感想が多く、インターンシップ制度は高く評価されています。

農学部

農学部教授 ● 荒谷 明日兒

農学部では、農業生産科学科および応用生物化学科が各学科におけるインターンシップを、また生産環境科学科ではコース別(生物生産情報工学、地域環境工学、森林管理科学、生態環境科学)インターンシップを開講している。このうち生産環境科学科では、受講対象者を各コースの学生に限定している。これに対し、農業生産科学科では新潟県の斡旋による農家への宿泊研修のほか、妙法育成牧場、県立植物園、市立園芸センターなどを学科認定の研修先(学生が独自に開拓するものも基本的可)とし、応用生物化学科では学生の希望にあわせて、教員が食品関連の企業や研究所などを紹介している。なおこれら2学科の間では、各学科の学生が他学科のインターンシップを相互に受講することも可能にしている。